

「韓日伝統芸術交流音楽祭」と 「韓国海洋大学校 Sea Cross および韓国国楽研究会オウルリムとの交流会」

平成 27 年度の事業として全国邦楽合奏協会は 5 月 1 日から 3 日にわたって、韓国釜山において「韓国海洋大学校合唱団 Sea Cross, 韓国国楽研究会オウルリムとの交流会」および国立釜山国楽院等との共催の「韓日伝統芸術交流音楽祭」を開催した。

なお、この事業には公益財団法人三井住友海上文化財団および公益財団法人東芝国際交流財団から助成金を得たことを併せて報告する。

【事業名称】韓日伝統芸術交流音楽祭および韓国海洋大学校 Sea Cross, 国楽研究会オウルリムとの交流音楽会

【主催】韓日伝統芸術交流音楽祭：

全国邦楽合奏協会、国立釜山国楽院、釜山文化財団、在釜山日本国総領事館
韓国海洋大学校 Sea Cross, 国楽研究会オウルリムとの交流音楽会：
全国邦楽合奏協会、韓国海洋大学校 Sea Cross, 国楽研究会オウルリム

【後援】駐神戸大韓民国総領事館

【実施期間】平成 27 年 5 月 1 日～平成 27 年 5 月 3 日

【助成金】公益財団法人三井住友海上文化財団、公益財団法人東芝国際交流財団

【日本からの参加者】千葉、東京、大阪、兵庫、広島、徳島、高知の都府県から 24 名

【事業活動内容】

本事業は下記の二つの活動を含む。

1. 韓国海洋大学校合唱団 Sea Cross および国楽研究会オウルリムとの交流演奏会
日時：2015 年 5 月 1 日、場所：オウルリム会館（韓国釜山市）
 2. 国立釜山国楽院・全国邦楽合奏協会・釜山文化財団・在釜山日本国総領事館との共催による「韓日伝統芸術交流音楽祭」
日時：2015 年 5 月 3 日、場所：国立釜山国楽院（韓国釜山市）
- さらに、「日韓伝統芸術交流祭」は次の 3 つの事業によって構成される。

(1) 日韓の伝統音楽についてのシンポジウム

当協会から釣谷真弓氏、田中康文副理事長、藤本玲理事長がそれぞれ「両国の伝統音楽・芸能の類似点・相違点について」、「日本の邦楽界の今」、「全国邦楽合奏協会の成り立ちと韓日伝統音楽交流の始まり」のテーマで講演し、日本と韓国の伝統音楽界の歴史と現状について討論した。

(2) 伝統楽器ワークショップ

日本および韓国の楽器体験を一般市民に公開した。

日本の楽器：箏・三弦・尺八、韓国の楽器：カヤグム・ヘグム・テグム

(3) 韓日伝統音楽コンサート

日本：三曲合奏「八千代獅子」、

現代邦楽曲「子供のための組曲」指揮 稲田康（オーケストラアジア指揮者）

韓国：宮中音楽「宗廟祭礼楽」、民俗音楽「伽倻琴散調」、民俗音楽「サムルノリ」

合同演奏：韓国民謡「アリラン」、日本民謡「ソーラン節」

「韓日伝統芸術交流音楽祭」は、日本政府の「日韓国交正常化 50 周年記念事業」および韓国政府の「韓日国交正常化 50 周年事業」、また、釜山文化財団が主催する「朝鮮通信使祭り」の行事の一環として位置づけられた。

【事業成果】

5月1日の Sea Cross, オウルリム, 全奏協 3 団体の交流コンサートでは、それぞれの団体が演奏を披露し、最後に合同で「アリラン」, 「アメージング・グレース」そして「さくらさくら」を演奏した。男声合唱, 韓国楽器合奏そして邦楽器合奏の異なるジャンルの音楽の演奏を互いに観賞することで、それぞれの特徴を把握することができた。また、合同演奏では、全く異なる音が織りなすハーモニーを醸し出すことができ、新しい発見ができた。演奏会後の交流会においても、互いの友好を確認することができ、可能なら今後もこのような活動を再現したいと確認しあった。

5月3日の韓日伝統音楽祭の最初の事業である「韓日伝統音楽についてのシンポジウム」では、約 50 名の聴衆に対して行った「日韓の伝統音楽についての類似点と相違点」, 「日本の伝統音楽界の現状」, そして「全奏協の成り立ちと今後の日韓の交流について」の内容の講演に、参加者は大きな関心を寄せた。割り当てられた時間が短かったことから多数の質問を受け付ける時間がなかったが、このような討論会を再度持ちたいとの意見もあった。

3日2番目の事業のワークショップでは、箏とカヤグム, 三弦とヘグム, 尺八とテグムの組み合わせで国楽院の3つの練習室を使って楽器体験をした。主に演奏するメンバーが参加したが一般市民の参加もあり、お互いに初めての楽器に触れる経験をした。演奏の仕方, 楽器の音などを自分の国の楽器と比較体験することができ、両国の音楽・楽器の理解の上で有意義なワークショップであった。

3日夜の交流演奏会には 680 席の蓮楽堂に 568 名の聴衆を集め、両国の伝統楽器による演奏を楽しんでもらった。本交流演奏会に対するアンケートの結果、今回の伝統音楽会に対して全般的に大変好感的な意見が寄せられた。8割近くの聴衆が邦楽演奏を初めて聴いたとしており、邦楽に対する関心と理解を持ってもらった。また、日本の古典曲や韓国の宮中音楽にも根強く関心を持つ聴衆がいることを再確認した。特に、韓国民謡「アリラン」そして日本民謡「ソーラン節」の合同演奏が日本と韓国の楽器の融合した音を作り出し、本事業の当初の目的である伝統音楽を通しての日韓両国の友好を十分に果たせたと感じている。さらに、個別に聞き取った意見の中に、音楽専門家から今回の演奏会が日韓の文化比較ができたコンサートであり、今後このような交流活動をさらに広げてほしいという意見ももらった。

参加したメンバーも、日本と韓国の橋渡しができたという充実感で釜山の滞在を楽しんだ。民間レベルでの日本と韓国、さらには国際的な交流に今後も努力を惜しまず貢献したいと思っている。